

『剣道と私の成長』

北海道

砂川錬心会

小学6年 齊藤あおい

「じゃ行ってくるねー」

母に明るく言ったものの、やっぱりやる気が出ない。そんなことを考えている余裕もなく、私はダッシュで道場に向かった。

吹奏楽と剣道の両立は大変で、書道・英語など習い事で私の頭の中のスケジュールは埋まってしまった。吹奏楽はとても楽しい。だが、そのあとに剣道があるのかと思うと、どうしても気が滅入ってしまう。なぜ私はこんなに忙しいんだろうと考えたりしてしまう。

でもそんな私が頑張ってきたのは、私を育ててくれた家族、落ち込んだ時最高の励ましをしてくれる友達、剣道を丁寧に教えてくれた先生方、そのほかにもたくさんの人達が私を支えてきてくれた。そのことは分かっている。とてもわかっているはずなのに頑張ろうという気持ちに疲れ切った体はついてきてくれなかったりする。それはいったいどうすれば治るんだろうと考える。

私は剣道を始めて七年になり、自分が少し成長しているのが実感できることがたくさんある。四年生になってからは吹奏楽も始めたので、もともと習っていた書道・英語と習い事が大変すぎて稽古中に泣いてしまうことも結構あった。

剣道はたまに楽しいと思える。だが私には根性というものがないように感じる。少し練習しただけで休みたいと思ってしまう。それでも私が剣道を何年も続けていられるのはある意味根性があるのかもしれない。休みたいと思う気持ちを頑張るぞ！という気持ちに切り替えるということをしていると、すこし、ほんの少しだけ成長していることに気づく瞬間がある。それは私にとってとってもいいことだと思う。

私はあまり積極的な性格とは言えない。そのせいか稽古でも積極的に打っていくことが少なく、大会の後の反省でも「今日も自分から攻められなかった…」とほとんど毎回反省している。

だが最近は、積極的に打たれてもいいから自分から打っていけるように稽古をがんばり、その反省の効果が出てきたのか、調子のよいときは自分から攻めることができたり、応じ技も決まったりする。そんな時には成長を感じることができる。

やはり、剣道というものは、「人間形成の道」なのであると、改めて実感させられた。いつも稽古前に正座をして全員でさらっと言ってしまう「剣道の理念」にもそういう意味があると思うと、言葉の重みも変わってくる。

剣道は下手でも剣道を通してできた友達はとてもいい。まさに「交剣知愛」ということかもしれない。交流試合や合宿などで、剣道を通じて作った友達は、たとえ剣道を卒業して

もその思い出は一生ものになるだろう。

ここまで剣道が続けてきたところは我ながらすごいことだと思う。

それに、ずっと支えてきてくれた両親や祖父母に対してとてもありがたいと思えてきた。

そうやって感謝できるのも、やはり、剣道をやってきたことで感謝することができるのかもしれない。

もし、私が剣道にかかわらない生活を送っていたらどうだろう…？のんびりする時間が増えたりするかもしれないが成長を感じる機会がぐんと減ったかもしれない。そう思うと半ば強制的に私に剣道をやらせた母にありがたいと思える。私は自分のことを努力家だと思ったことはないが、剣道の中で成長が感じられることがあるのは私が一応努力しているからかもしれない。あの有名なトーマス・エジソンの言葉に「天才とは九十九%の努力と一%のひらめきだ。』という名言がある。つまり、凡人でも努力さえすれば、それなりの結果が得られるということかもしれない。天才といわれたエジソンも影の努力をして、結果を出したということにこの言葉を聞いた私は驚いたことが記憶にある。

私は剣道ならずずっと続けていきたいと思う。二十年後、三十年後、剣道をやっていてよかったといえるよう小さな積み重ねを大事にし、悔いのない剣道をしていきたい。